

## 朝ごはんやさん

対応いただいた方

大阪市立西淡路小学校 校長 福永雅士  
西淡路地域活動協議会 会長 表西弘子

### 大阪市東淀川区及び大阪市立西淡路小学校の概要

大阪市東淀川区について

人 口 約 177,000 人

面 積 53.25 km<sup>2</sup>

学校数 小学校 16 校（児童数 約 7,100 人）

中学校 8 校（生徒数 約 3,100 人）

西淡路小学校について

児童数 409 人（平成 30 年度）

学級数 12 学級（平成 30 年度）

東淀川区は、大阪市の北東部最北端に位置する。西淡路小学校は平成 28 年 4 月に淡路小学校と統合し、隣接する淡路中学校とともに隣接型小中一貫校「須賀の森学園」として開校した。



前日準備から当日の流れ

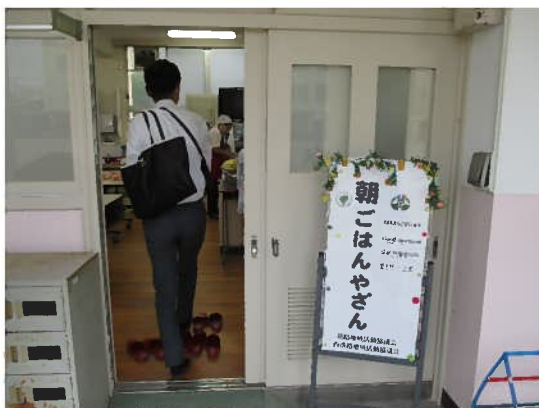
実施前日

ボランティアが買い出し。（今回は表西さん）  
買い物をしながらメニューを決める。

実施当日

6 時 00 分

ボランティアの当番が裏門と家庭科室を開錠。  
視察日のボランティアは5人。



裏門と家庭科室だけで完結するのは、1 階の教室がすべて外廊下になっている構造であるため。

正門は教頭先生が 7 時 30 分に開錠する。





調理開始。



お手伝いさせていただきました。



この日のメニューは、

○親子丼

○お味噌汁（油揚げ、玉ねぎ、お麴）

○きゅうりの漬物

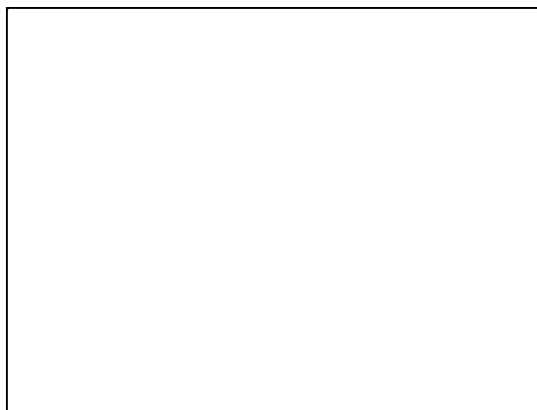
○バナナ ○ミニトマト ○プチケーキ ○ヤクルト



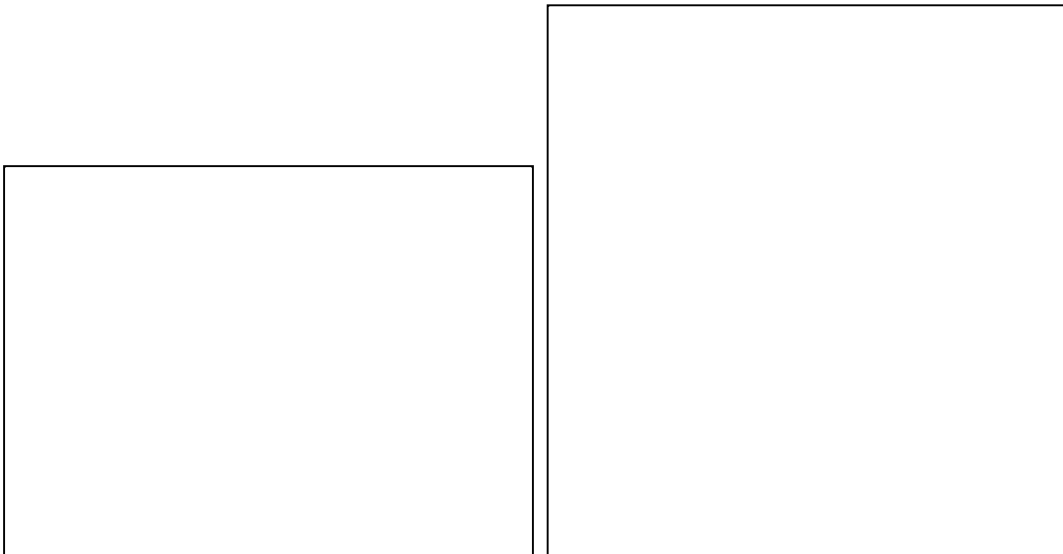
7 時 30 分

児童が登校し始める。

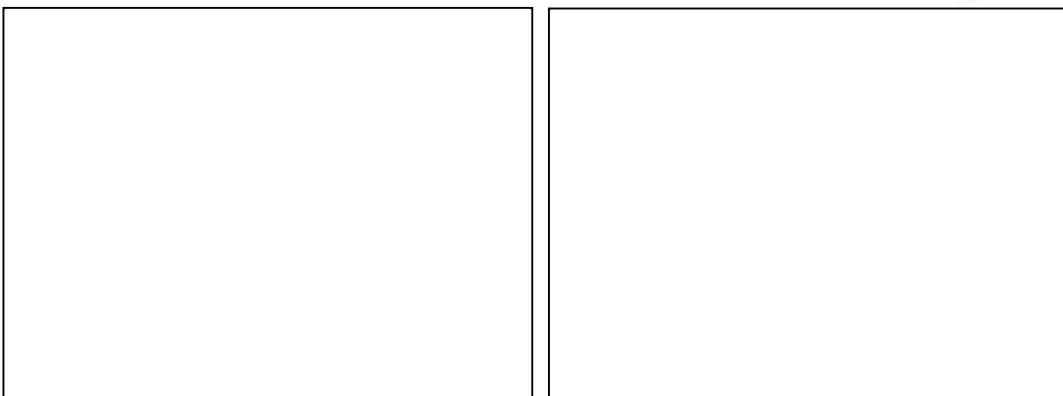
ランドセルを持ったまま直接家庭科室へ。この日は 73 人の申し込み。



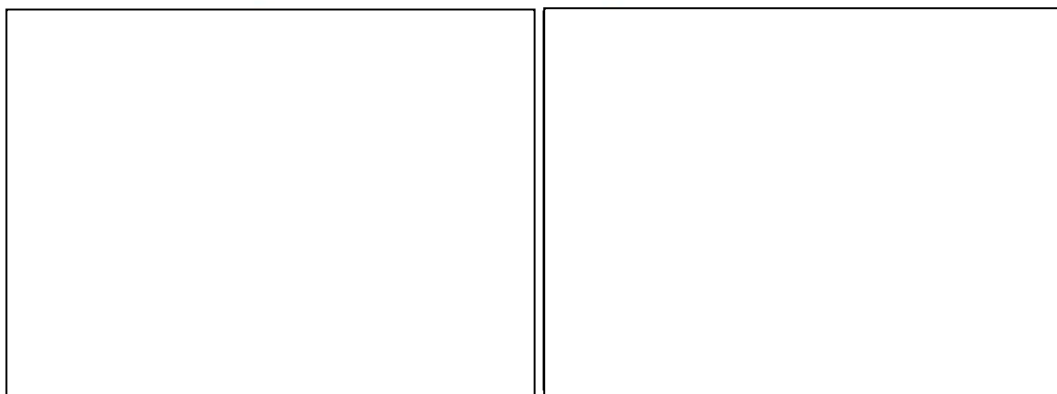
ほぼ全員が教室に行く前に来るため、入口はランドセルが散乱していた。



各自、テーブルに用意されているお皿を持って、食べたい場所へ。



おばちゃんから親子丼とみそ汁と受け取る。  
「おはようさん。」「おはようございます。」




「ごはん減らして。」  
「どれくらい？これくらいか？」

--

「食べられへん」  
「残しといてええよ」

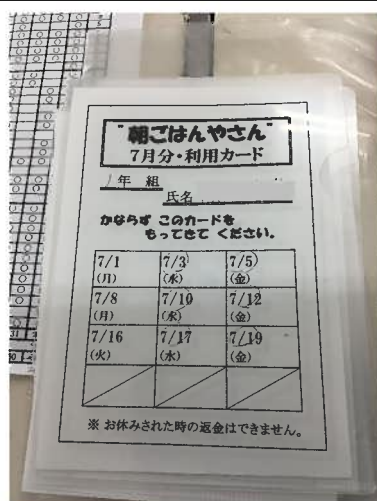
--

食べ終わった子からお皿を流しに運びます。  
おばちゃんに「ごちそうさまでした。」

--

利用カードにスタンプを押します。  
「いってらっしゃい。」「がんばっといで。」

--	--



9時30分頃

片づけと家庭科室の掃除が終了。解散。

#### 事業を始めるまでの経緯

○朝ごはんの大切さ、朝ごはんを食べられない子に食べさせてあげたいという想いでスタートした。

表西さんのいう「食べられない」は、経済的な問題だけでなく、生活習慣の乱れによる食欲不振や一人で食べたくない気持ちなど、食べたくても食べられないだけでなく、本人の選択による「食べたくない」も含む。

○平成28年に廃校になった旧西淡路小学校の校舎で提供することや、校門前でケータリングにより提供することを考えたが断念し、前校長が家庭科室の利用を提案してくれたため、現在の形となった。

○平成28年度は東淀川区の市民提案事業として採択され、モデル事業として

開始した。2年目以降は区から淡路・西淡路地域活動協議会への補助事業として続けている。

#### 運営主体について

- 淡路地域活動協議会、西淡路地域活動協議会  
（淡路小学校、西淡路小学校が統合したため、両協議会が校区となっている。）
- ボランティアは全部で11人。年齢は、71～83歳。全員が校区の方である。  
月・水曜日：4人 金曜日：5人。表西さんは毎回参加している。
- ボランティアは全員表西さんが誘った。元々地域の活動や役職を歴任しているので、団体や人との付き合いが多かった。
- これまでは、固定メンバーでやってこれたが、高齢のため病気やケガで参加できない者も出てきた。週1回でなく月1回参加で何人も集めるなど、参加パターンを増やして対応するようにしている。

#### 開催頻度について

- 週3回（月・水・金曜日）

#### 時間について

- 個人登校。
- 7時30分から8時15分までに来るように伝えている。
- 普段は8時25分までに登校。
- 学校の統合で校区が広がった。低学年だと登校に30分かかる子もいる。
- 朝ごはんやさんに申し込んでいない子たちも8時頃には登校している子がほとんど。参加している子に聞いたところ、朝ごはんやさんの日もいつもと起きる時間は変わらないということであり、家で朝ごはんを食べない分、普段より早く家を出ているようであった。

#### 参加者について



○事前申込制。

○アレルギー対応はできない。

○参加者数は曜日によってバラつきがある。月曜日は約 40 人、水曜日は約 60 人、金曜日は約 70 人。

7 月第 1 週の申し込み状況は次のとおり。

1 年生			2 年生			3 年生		
3 回		7 人	3 回		6 人	3 回		2 人
2 回	月・水		2 回	月・水		2 回	月・水	
	月・金			月・金			月・金	
	水・金	5 人		水・金	3 人		水・金	1 人
1 回	月	3 人	1 回	月		1 回	月	
	水			水	1 人		水	1 人
	金	5 人		金	5 人		金	2 人
合計		20 人	合計		15 人	合計		6 人

4 年生			5 年生			6 年生		
3 回		9 人	3 回		3 人	3 回		8 人
2 回	月・水		2 回	月・水		2 回	月・水	
	月・金	2 人		月・金	2 人		月・金	
	水・金	1 人		水・金	7 人		水・金	3 人
1 回	月		1 回	月		1 回	月	
	水	1 人		水	2 人		水	
	金			金	1 人		金	1 人
合計		13 人	合計		15 人	合計		12 人

合計		
3 回		35 人
2 回	月・水	0 人
	月・金	4 人
	水・金	20 人
1 回	月	3 人
	水	5 人
	金	14 人
合計		81 人

週3回:43%

週2回:30%

週1回:27%

- 昨年度までは毎回 20～30 人程度の参加であったが、今年度は5月以降、参加者数が多い。5月から1年生が参加し始めたからであるが、1年生の申し込みが非常に多い。学年別にみても最多である。入学前から楽しみにしていたという声もあり、地域でも認知され始めているようである。
- 朝ごはんやさんに来たことがある子は、学校全体の2割以上になる。

#### 料金、資金について

- 自己負担額は 50 円／食。
- 区から地域活動協議会に対して補助金が出ている。
- 食材だけで 170 円／食くらい。諸経費を入れて約 200 円／食と考え、補助率が 75%であるため、50 円を自己負担してもらっている。
- お米は福島県の知り合いの方が寄付してくれるため、経費に含めていない。
- 「ふうどばんく OSAKA」から食材の提供を受けることもある。
- 買い出しの際はできるだけ特売品で賄うなどの節約をするようにしている。
- 就学援助を受けている子は自己負担額を無料にしている。対象の子がいるかは先生に判断してもらっている。申し込み書は、朝ごはんやさんに直接提出して、朝ごはんやさんから直接に利用カードを渡すようにしているが、他の子にはわからないように、先生から利用カードを渡すようにしている。

#### メニュー・食材について

- 前日に買い出しに行く。その場でメニューを決めている。
- 買い出し後、全員にメニューを知らせて調理方法や集合時間（ご飯を炊く場合は少し早く集合など）の調整・共有をしている。
- 主食がパンやごはんだけのときは、みそ汁は具たくさんにしている。今日の親子丼は具が多いので、みそ汁は簡単にしている。
- 今日のメニューは、おかずの種類が多いように見えるが、置くだけなど手間はかからない。親子丼もみそ汁も具を切る手間はあるが、共通の食材を使っているため、それほどの負担感はないようである。時間がかけれないので簡単に調理できるようなメニューにするようにしている。
- 学校給食のメニューと重ならないようにする場合もあるが、基本は気にしていない。
- 参加者数が増えたこともあり、買い出しには車が必要になってきた。ボランティアの方の旦那さんに車を出してもらうなど、全員が高齢であるためボラ

ンティアを支える方の存在も必要となってきた。

#### 保険について

- 実施主体（淡路・西淡路地域活動協議会）：ボランティア活動保険
- 児童：加入なし
- 学校教育活動での事故の場合は、独立行政法人スポーツ振興センター災害給付制度※が適応されるが、「学校管理下での教育活動ではない」という認識のため、児童に対する事故はケアされていない。  
※独立行政法人スポーツ振興センター災害給付制度  
義務教育諸学校、高等学校、高等専門学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、高等専修学校及び保育所等の管理下における災害に対し、災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行っている。

#### 衛生管理について

- エプロン、三角巾を着用し、手洗いを励行している。
- 食器は、事業開始当初に購入した食器消毒保管器具を活用している。
- ボランティアのうち2人が調理師免許を持っている。また本事業の代表者が食品衛生責任者になっている。

#### 子どもたちの様子について

- ランドセルの置場がないくらい参加者が多く、賑やかであった。
- 親子丼とみそ汁を受け取るときや、食器を片づけるとき、利用カードに印を押すときに必ずおばちゃんの声かけがみられる。  
「量はどうする？」「ちゃんと食べれたね。エライな」「いってらっしゃい」
- 友達と来ている子が多い。「水曜と金曜は友達と食べるって決めてんねん。」
- 「（朝は）いつもあんまり食べない。（朝ごはんやさんでも）いっぱい食べられないけど、家より食べれる。」
- 「楽しい」
- 「おいしい」
- 朝ごはんやさんで知り合って、曜日をそろえてくる子もいるとのことであった。
- 兄弟でも一緒に食べにくる家庭もあれば、来る子と来ない子がいる家庭もあ

る。中には双子でも、ひとりしか来ない家庭もあるとのことであり、家庭で朝ごはんは用意されているが、概ね「楽しい」から食べに来ているのではないかと考えられる。

#### 担い手の声

- 「やっぱり、子どもはかわいいよ」
- 「週1回位、朝早くてもいいわ」
- 「みんなに食べさせるならいいんちゃう？」
- 「朝早いけど、終わるのも早いから別に困らないよ」

#### 校長先生の声

○家庭科室を提案したのは前校長だが、この学校は設備的な条件が整っていたからだと思う。学校を使うことができたとしても、学校の誰かの手を借りなければならぬとか、警備や条件に見合う学校は少ない。

家庭科室の配置：裏門から近く、外から直接出入できる構造

セキュリティ：警備システムの切り替え（家庭科室だけ別セットにする）は必要であったが、裏門の鍵と家庭科室のセキュリティの解除だけで済む。

○教頭は7時頃に学校に来ている。朝ごはんやさんのために早く来ることはなく、負担はない。（一緒に食べることはある。視察の際も一緒に食べていた。）

○普通は学校を貸すことはない。表西さんとのこれまでの信頼関係があったから貸すことができた。

○就学援助は全児童の20%を超えており（磐田市：約7%）、大阪市内でも比較的多い地区である。

○朝ごはんやさんをやっている月・水・金曜日は、子どもたちの様子が間違いなく違う。授業への取り組み方というか、とにかく元気である。

○朝ごはんやさんの取り組みは非常に重要だと考えている。東淀川区が行った調査では、学校から帰宅してからの家庭での過ごし方がテレビやゲーム、スマホの場合は、寝る時間が遅くなり、朝起きられず、起きてすぐに食べられるわけもないので食べずに学校に行くという生活になる。そのような傾向がはっきりとでている。

事前に朝ごはんやさんに申し込んでいれば、

「朝ごはんやさんがあるから行かなあかん日や。」「起きなあかん。」

朝ごはんやさんが無ければ、朝起きてから4時間近くお腹が減った状態であり、授業に身が入るわけがない。きっかけを与える意味でも朝ごはんやさんの意義は大きい。

#### 表西さんの声

- 朝ごはんやさんを始めてしばらくしてからアンケートを取った。「学校が楽しくなった」という回答が多く励みになった。一方で、その当時だからこそその回答であり、週3回の実施が常となった現在、同様のアンケートをとっても、そのような結果を得ることはできないと思う。
- 朝ごはんの事業は、とにかく「人」「金」「場所」が大事。「人」「場所」は、これまで地域でいろいろな活動や役をやってきて、学校とも長い付き合いがあった。ずっと関わってきたからこそ貸していただけたし、協力してくれる人もいた。突然に活動を始めたのでは学校を貸してはくれなかったと思う。
- まちで声をかけられることが多くなった。昨日は買い出し先のお店で小学生の子から「表西さん」と声をかけられた。朝ごはんやさんの時に名札をつけているからだと思う。お母さんからは「いつもありがとうございます。」と言っていた。初めの頃は「あそこはごはんが食べれん子がいくところや」と聞かされていた子どももいたが、今は家庭にも地域にも浸透してきた。本当に経済的な問題を抱える家庭であっても、子どもが参加しやすい状況になっている。
- とにかく誰でも来やすい雰囲気にするのを大事にしている。朝ごはんやさんに来たい理由は様々である。「（経済的に）食べれないから」「一人で食べるのはさみしいから」「友達がいるから」。どんな理由であれ、来たいなら来ることができるように、「来たい」という気持ちを大事にしてあげたい。

#### 事業の今後

- 学校・地域で市民権を得て参加者数が増えている。教室規模的にもボランティアの作業的にも現状の70人くらいが限界である。
- 表西さんは、「今でも本当は毎日提供したい。」と思っている。
- 最終的にはなくなれば良い事業だと思っている。朝ごはんやさんの効果はすぐに出るものではない。その子が、大人になった時に、「あの時にこういうことがあったなあ」と心の中に思い出してくれる、そういうものになったら役に立ったかなと思う。



その他

○事業の実施にあたり準備したもの

- ・ 冷蔵庫 ・ 食器消毒保管器具 ・ 炊飯器（2 升炊、1 升炊） ・ 鍋
- ・ 食器

冷蔵庫



食器消毒保管器



○保管場所が必要なので、棚を空けてもらった。学校の備品と別にするようにしている。



○とにかく学校に負担をかけないようにしている。家庭科室を「貸していただいている」と思っている。

- ・ 基本的に学校の備品は使わない。
- ・ 朝ごはんやさんで出たゴミは全て持ち帰る。
- ・ 朝ごはんやさんが終わったら必ず家庭科室を清掃して、借りる前よりきれいにするように心がけている。朝ごはんやさんを始める前に比べて、家庭

教室がきれいになったと言われる。

- ・申し込みチラシも自分たちで印刷し、クラスの人数毎に分けて、先生たちがそのまま持っていけるようにしている。申し込み受付もお金も朝ごはんやさんに直接持ってきてもらうようにしている。

○エアコンは元々整備されていた。大阪市は数年前に全教室にエアコン整備済みである。

○行政との関わりは補助金だけであり、初年度は区民提案事業として。2年目以降は地域活動協議会に補助金を支出しているだけである。

○隣接地（道路を隔てた隣）に隣接型一貫校となっている中学校がある。ごはん屋さんに来ていた卒業生にも食べさせたいと思い、中学校でも申込書を配ったことがあるが、誰も来なかった。部活動や塾など小学校とは違う生活スタイルであるという理由もあると思うが、やはり学校内であることが大事だと思うとのことであった。

#### 視察の様子



## 「朝ごはんやさん」

※ 2016年度 事業申請時の文章です。

## 1、事業目的

文部科学省の2014年度全国学力・学習状況調査によれば、朝食を食べないことがある小学生の割合は、小学校6年生で11.8%にものぼる。

2015年度 同調査においても、毎日朝食を食べる子どもほど、平均正答率が高い傾向にあることが指摘されている。大阪市教育委員会においても、「朝食は、やる気・集中力・体力にとって大切」であることを広報している。

学校の始業時間前に朝食を提供することで、朝食を摂ることの大切さや、規則正しい生活習慣の定着、学力・体力の向上の一助となることを目的として実施する。

又、子どもを取り巻く経済的貧困や心理的貧困等の社会的課題を抱えた児童も包含し得ることが期待できる。

## 2、事業概要

実施主体：西淡路地域活動協議会、淡路地域活動協議会  
 <地域活動協議会活動費補助金事業>

実施期間：2016年11月1日～現在

実施場所：大阪市立 西淡路小学校 家庭科室

実施日時：週 3回(月、水、金曜日) ※学校休校日等を除く  
 午前 7時 30分～8時 30分

◆原則1ヶ月ごとの事前申込み制とし、全校児童に案内を配布し受付。

◆申込時に、利用料(1食50円)を徴収。

食事内容 主食：パン、米飯、麺類、等 (日替わり)  
 副食：各種スープ、その他 (日替わり)  
 デザート：フルーツ、ヨーグルト、等 (日替わり)  
 飲物：牛乳・お茶・ミネラルウォーター

## 調理体制

要員(無償ボランティア)：11名(月⇒3名、水⇒3名、金⇒4名、事務担⇒1名)

調理作業：当日 朝 6:00から実施

食材購入：前日及び事前に毎回時購入

## 3、事業を始めた「きっかけ」・経緯

2016年4月・・・地域の2小学校が統廃合することとなり、廃校となる小学校での「朝ごはんやさん」の実施を企画検討してきた。しかし、朝の限られた時間の中で、登校する学校とは別の場所へ、わざわざ朝食を食べに行くことはあり得ないとの結論に至った。

次いで、軽自動車を使ったケータリングを校門前で実施、との方向で再検討。

しかし、これも衛生面や食べる場所、暑さ・寒さ等を考慮したら無理が多すぎる。

## 「小学校の家庭科室を使ってもらったらどうですか」

その時に、校長先生から「小学校の家庭科室を使ってもらったらどうですか」との提案あり。

この事業の成功は、子ども達が通う小学校で実施できたということが大きな要因といえる。

## 4、参加者現状

1日平均参加者数：54.6人(2019年6月)

「朝ごはんやさん」に参加したことのある在籍児童数は118名。

西淡路小学校総児童数(422名)の約27.96%。

## 5、アンケートの結果と分析（児童）抜粋 回答率 90.5%

★ 朝ごはんやさんをどうやって知りましたか。

チラシ・ポスターを見て＝55%、親に教えてもらって＝18% は、子どもが案内を家に持って帰って親に渡していることを考えれば、同義ともとらえられる。

友達におしえてもらって＝24% の内容は、友達に誘われて・友達同士で参加していることであり、現実には子ども達は楽しいムードで参加している。

★ 普段おうちでどのくらいの回数朝ごはんを食べますか。

「毎日食べる」71%に対して、「食べない」は8%であった。

「週3日以上」から「毎日食べる」までの計は約90%、「2回」と「食べない」の計は約10%となり、週の大半を食べていない子どもの比率は10%程度とみることができる。

★ 朝ごはんやさんにきて、なにか変わったことがありますか（複数回答可）

「朝早くおきるようになった」が66%という成果を上げている。

※半面、朝早く起きるのが嫌だから参加しないという子どもの存在も否めない。

「学校が楽しくなった」が24%であり、「勉強や授業が楽しくなった」8%を加算すると、32%となり、この比率は大きいといえる。

「友達がふえた」も13%となっている。

★ 朝ごはんやさんの場所について

「学校が良い」が92%を占めており、その理由は「そのまま教室にいけるから」が、回答の55%となっている。

学校という場所での実施が大きなウェイトを占めていることが伺える。

★ 朝ごはんやさんのメニューについて

「これでいい」が71%、「もっと多い方がよい」という26%は、希望するメニューの記載をみても、豊富なメニューを求めていると考えられる。

★ 朝ごはんやさんについて、なにか意見はありますか

意見のほとんどが「おいしい」と「ありがとう」であった。

## 6、アンケートの結果と分析（保護者）抜粋 回答率 83%

回答者は、圧倒的に女性（母親）が多かった＝83%。

★ 食事の提供場所について、いかかでしたか

「学校が良い」の100%は、試食会や児童のアンケートからも見てとれる結果といえる。

特に保護者の立場からの「安心・安全」感の大きさが計れる。

★ 理想の開催頻度について

週3回＝42%、週2回＝21%、週5回＝17% となっており、現在の開催頻度で妥当であるかと捉える。

★ 朝ごはんの内容について

「満足」が83%で、17%が「未回答」であった。

※未回答の保護者については、「メニューを知らない、子どもからあまり話を聞いていない」ので回答できなかった、という面もあったようだ。

★ その他ご意見・ご要望がございましたらご記入ください

特徴（特異）的な記載であるが、「週3回に合わせて 水 金 と仕事の早番を会社にお願ひして入れてもらっています。週3回は変えないでほしい」という意見があり、保護者の就労とも繋がっている現実をみることができる。



「朝ごはんやさん」実施集計表

年	月	実施回数	参加者数	平均
2016	11	11	252	22.9
	12	9	284	31.6
2017	1	9	289	32.1
	2	12	414	34.5
	3	10	303	30.3
	4	8	265	33.1
	5	11	393	35.7
	6	13	391	30.1
	7	8	237	29.6
	9	12	354	29.5
	10	13	394	30.3
	11	12	341	28.4
	12	11	356	32.4
2018	1	10	312	31.2
	2	12	378	31.5
	3	9	298	33.1
	4	9	262	29.1
	5	11	324	29.5
	6	13	347	26.7
	7	9	285	31.7
	9	12	374	31.2
	10	13	421	32.4
	11	12	406	33.8
	12	10	374	37.4
2019	1	10	367	36.7
	2	12	491	40.9
	3	9	384	42.7
	4	9	276	30.7
	5	12	501	41.8
	6	10	546	54.6
	7	9	527	58.6
計		330	11,146	33.8

(2～6年)



## 小学校で「朝ごはんやさん」



表西 弘子

### 「朝ごはんやさん」

小学校の家庭科室で子ども達に朝ごはんを提供する活動です。

2016年10月から発足しました。

### “朝ごはん”ですよ～

朝7時30分、「おはようございま～す」

ランドセルを背負った子ども達の、明るい元気のいい声がひびきます。

これは、大阪市東淀川区内の西淡路小学校・家庭科室で実施している「朝ごはんやさん」の風景です。

子ども達は、月・水・金の週3日間、朝7時30分から8時30分まで、この家庭科室で朝ごはんを食べます。参加者は1日平均、約30名です。

利用料は1食50円で、1か月ごとに、全校生徒に申込書を配布し、受け付けています。

基本メニューは、

- ◎主食 : パン、米飯、麺類、等
- ◎副食 : 各種スープ、その他
- ◎デザート : フルーツ・ヨーグルト等
- ◎飲物 : 牛乳・お茶・ミネラルウォーター

来ている子ども達を見ていると、友だち、姉妹兄弟、1人っ子などさまざまですが、みんなでワイワイガヤガヤと本当に楽しく食事をしています。

他のクラスの子、他の学年の子とも仲良くなり、小さな地域コミュニティも形成されています。

### 子どもの貧困

日本で相対的貧困状態にある17歳以下の子どもの割合は、厚生労働省の2015年調査で13,9%となっています。「7人に1人の子どもが貧困状態」にあるということです。

外からは見えにくいと言われる子どもの貧困について、「食」の視点から考えてみました。

2006年文部科学省より、基本的生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘され、個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として・・・地域による、一丸となった取り組みが重要な課題として「早寝早起き朝ごはん」全国協議会が設立され、朝ごはんの問題が大きくとり上げられてきました。

2007年度から実施されてきた「全国学力・学習状況調査」の、2017年度結果においても、「朝食を食べないことがある」と回答した小学6年生は13%に上ります。

同調査の正答率（国語、算数）では、毎日朝食を食べている子が66%に対して、朝食を食べていない子は49%となっており、毎日朝食を食べる子どもほど、平均正答率が高い傾向にあることが指摘されています。

## 「朝ごはんやさん」の思い

朝ごはんの重要性、食べることでできない子どもの問題はよく話題にされますが、じゃ~どうすれば良いんですか。保護者の責任ですか。保護者の責任だけで放っていたら、目の前の子どもはどうなるんですか。保護者の相談、啓発・教育は勿論ですが、当面する子どもの生活を守りたい。これが「朝ごはんやさん」の基本です。

学校の始業時間前に朝食を提供することで、朝食を摂ることの大切さや、規則正しい生活習慣の定着、学力・体力の向上の一助となることを目的として実施しています。

更にこの活動が、子どもを取り巻く経済的貧困や心理的貧困等の社会的課題を抱えた児童も包含し得ることを期待しています。

朝ごはんやさんは、食べることでできない子どもが来る場所とはしていません。

食べたい子は誰でもおいで~、となっています。

さまざまな子どもの貧困が複合している現状です。

つらい思いをする子がでないように、学校とも連携して配慮しています。

## 発足の経緯

朝ごはんの重要性、食べることでできない子どもへ提供したい、という思いの実現にむけたきっかけは、2016年4月、地域の2小学校の統廃合による廃合校の施設活用でした。

しかし、いかに近隣とはいえ朝の短い時間に、朝ごはんを食べるためだけに、子ども達は立ち寄ってはくれないことに気づき、校門前でケータリングなどの方法も考えましたが衛生面や食べる場所、暑さ・寒さ等を考慮したら無理がありました。その時、

校長先生から「学校の家庭科室を使っていただいたらどうですか」との提案がありました。

この事業の成功は、子ども達が通う小学校で実施できたということが大きな要因といえます。

朝食場所が学校内にあるので、子どもにとっては「すご~く便利」、保護者にとっては「安全・安心」の場となっています。

## アンケート結果に見る

朝ごはんやさんを開始して5か月後に、参加者に実施したアンケートがあります。

設問ー普段おうちでどのくらいの回数朝ごはんを食べますか。

回答ー「毎日食べる」71%に対して、「食べない」が8%ありました。

設問ー朝ごはんやさんに来て、何か変わったことがありますか。

回答ー「朝早くおきるようになった」が66%という成果を上げています。

「学校が楽しくなった」が24%であり、「勉強や授業が楽しくなった」8%を加算すると、32%となり、この比率は大きいといえます。

「友達がふえた」も13%となっていました。

このアンケート結果は、現場で朝食を作っているメンバーの大きな励みにもなりました。

## 保護者の手抜き論

朝ごはんは保護者が作るもの。朝ごはんなどやったら親の手抜きを助長することになる。等の意見をよく聞きます。

朝食はパンとコーヒー（牛乳）だけ、という家庭も多いんじゃないでしょうか。

今やファーストフードが当たり前の時代でもあります。

1週間7日の内3日間は朝ごはんやさんに来て、あと4日間は家庭で作らなければなりません。その4日間を、ゆとりを持ってメニューを考えて充実させたら良いとしたらどうでしょうか。子どもが朝ごはんやさんのメニューの話をするので、お母さんも挑戦した。という話も聞きました。毎月、朝ごはんやさんで発行している申込書のメニューを見て作っている例もありました。いずれも、お母さんと子どもの会話からでたようです。ほほえましいものですね。保護者向けのやさしい啓発活動かもしれませんね。

### 学校との連携

朝ごはんを必要としている子どもについては、担任の先生を通じて連絡をもらいます。利用料の負担が困難な家庭は免除します。保護者が居ない家庭や、保護者が食事を作らない家庭、生活困窮家庭など、学校と連携して対応してきました。今後とも学校との連携を密にして、子どもを守り育てていきたいと思います。

### 今後も・・・

朝ごはんやさんの活動による成果は、今すぐに目に見えて現れるものではありません。でも、この朝ごはんやさん活動を必要とする子ども達がいる限り続けて行きたいと思います。大人になった時、「そういえば、あの時、朝ごはんやさんと言うのがあったなあ」と心のどこかに残ってくれていることを願いつつ・・・。



## 食事風景



## ミニバイキング

2018年度 2学期末(7/20)

学期末には、ミニバイキングをやっています。



2018年度 3学期末(12/25)

子ども達は、とっても楽しみにしています。



メニューの一部です



11/5 ごはん、小松菜炒  
おでん(5種)  
みそ汁、みかん



11/9 カレーライス  
パイナップル  
乳酸菌飲料



11/19 きつねうどん  
パイナップル  
乳酸菌飲料



11/21 ごはん、みそ汁  
玉子焼、ウィンナー、ふりかけ  
りんご、ほうれん草お浸し



11/26 オムライス  
コーンスープ  
ヨーグルト、みかん



12/3 ハンバーガー  
春雨スープ  
バナナ



12/7 ピラフ  
みそ汁、乳酸菌飲料  
パイナップル



12/12 お好み焼  
みそ汁  
柿



12/21 豚まん  
豆乳スープ  
柿、プチケーキ



1/7 赤飯  
数の子、雑煮  
みかん、いちご



1/9 チヂミ  
トックスープ  
飲むヨーグルト



1/11 ミートソースパグティ  
ベーコンスープ  
乳酸菌飲料、プチトマト



# 3月の朝ごはんやさん 申込み受付

実施日……月曜日、水曜日、金曜日

※ 月曜日が休日の時は、火曜日に実施します。

時間……朝 7時30分～8時15分

(遅れたら入れません)

場所……西淡路小学校 1階 家庭科室

申込……下記「利用申込書」に

お金をそえて提出してください。

※ お休みされた時の返金はありません。

《3月の実施日》

日	月	火	水	木	金	土
					①	②
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓
㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

申込受付日……2月 22日(金)、25日(月) 7:30～8:30

※ アレルギー体質の児童への対応はできませんので、ご了承ください。

2月に提供したメニューの一部です。



2/1 豚まん  
ベーコン野菜スープ  
プチケーキ  
りんご



2/4 ハンバーガー  
クリームスープ  
いちご



2/6 お好み焼  
コンソメスープ  
オレンジ



2/8 俵にぎり  
みそ汁、ふりかけ  
乳酸菌飲料  
いちご、きゅうり漬



2/12 あんかけフライ麺  
りんご  
プチチョコ玉

## 基本メニュー

- ★ パン 又は ごはん、麺類 等
- ★ スープ 又は シチュー 等
- ★ フルーツ、ヨーグルト 等
- ★ 飲物(牛乳、お茶等)

2月も、「朝ごはんやさん」に対して、多くのご協力をいただきました。福島県の方から米60kgの提供や、「給料の一部を毎月寄付したい」という方からの申し出もありました。「ふうどばんくOSAKA」さんにはたくさんの食材をいつもお世話になっています。区役所から災害用備蓄米の交換に伴い、アルファ化米の提供をいただき、子どもさんにも説明して食べてもらいました。

## 西淡路地域活動協議会・淡路地域活動協議会

☎ 06-6322-1023

\*\*\*\*\* キ リ ト リ セ ン \*\*\*\*\*

## 「朝ごはんやさん」 3月分 利用申込書

2019年 02月 20日

学年・組	年	組
児童・生徒氏名		
保護者氏名		

利用金額 円 ( 50円 × 日 )

上記 利用料金をそえて申込みます。

※ 受領時にお渡しする「利用カード」をもって、領収書とします。

※ お休みされた時の返金はありません。

◆利用する日に○をつけてください。

		3/1
3/4	3/6	3/8
3/11	3/13	3/15
3/18		3/22

※ 3/20 は、卒業式のためお休みです。